



Gartner®

2022年のリーダーシップ・ビジョン

**CIOの戦略的
優先課題 トップ3**

はじめに

2022年になりましたが、世界的なパンデミックが収束する気配はありません。しかし、日常生活や職場では、パンデミック前とは違う考え方や基準が定着してきています。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を経験したことで、社会的弱者へのエクイティ (公平性) が求められるようになるなど、社会や他者への意識が高まり、ビジネスも変わりました。多くの企業では、パンデミックをきっかけに、従業員や顧客をはじめとするステークホルダーのニーズに対応する中で、デジタル・ビジネスが加速されるようになりました。新しいデジタル・オプションの利用は強制的に始まりましたが、今ではステークホルダーに支持されるようになっていきます。

B2Bの購買担当者は、営業担当者を介さずにデジタルで購入する方法に満足しています。また、B2Cの消費者にとって、ソーシャル・メディアのプラットフォームを介した商品やサービスの購入は当然のものになりました。さらに、従業員は物理的に分散し、非同期でコミュニケーションを取っています。そしてITインフラストラクチャは、このような「時間、方法、場所を問わない」環境でオペレーションが行われているにもかかわらず、組織を保護することが求められています。

リーダーとそのチームは、燃え尽きている可能性があります。彼らの時間とエネルギーの投入先に優先順位を付けることがかつてないほど重要になっています。

リーダーは、変化に適応し、新しいソリューションを迅速にデリバリーすることに数カ月を費やしてきました。リーダーとそのチームは、燃え尽きている可能性があります。彼らの時間とエネルギーの投入先に優先順位を付けることがかつてないほど重要になっています。そうしたリーダーやチームを支援するために、ガートナーのリーダーシップ・ビジョンでは、データ・ドリブンのリサーチに基づいて、注力すべき領域を明確にできるようトップレベルのガイダンスを提供します。

ガートナーは、さまざまな職務領域に関する詳細な知見をお客様に提供していますが、今回はその抜粋版をご紹介します。チーム・メンバーや他部門のリーダーと討議する機会に、優先課題やアクションをよりスピーディーかつ効果的に診断したり、2022年の戦略プランを策定したりする際に、ぜひご活用ください。



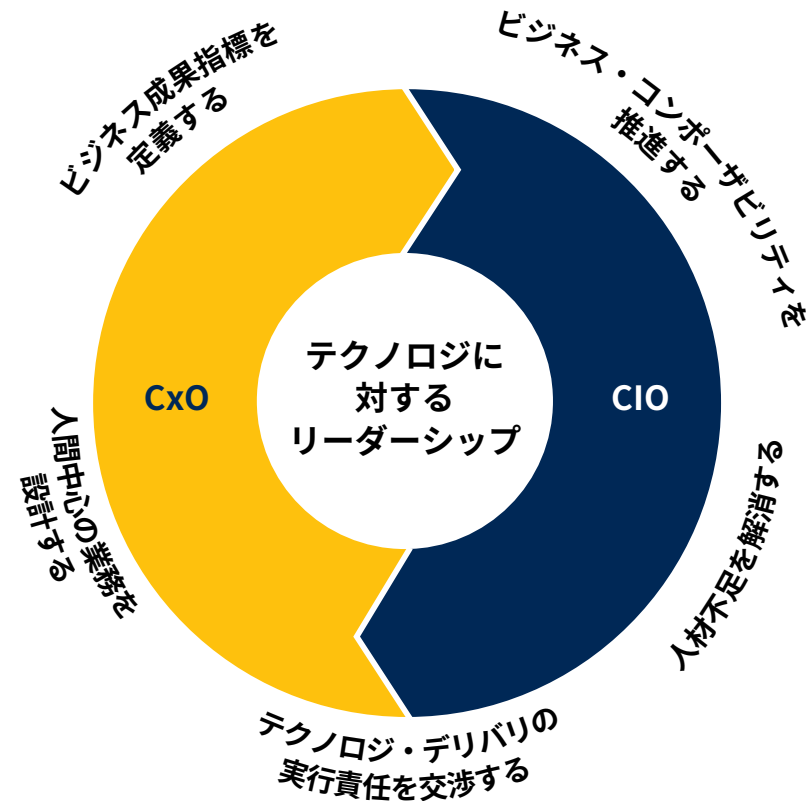
Chris Howard
Chief of Research, Gartner

テクノロジー・リーダーとしての実行責任は民主化され、CIO と CxO の間で共有される

テクノロジーの提供は、組織全体にわたって民主化されてきました。

企業は、日常的なオペレーションを遂行するためだけではなく、ビジネスを成長させて差別化するために、デジタル情報／テクノロジーをますます必要としています。

その結果、デジタル・イニシアティブのビジネス成果とテクノロジー成果に対するテクノロジー・リーダーとしての実行責任と説明責任は、CIO と CxO (その他のCレベル経営幹部) が共有することになります。CIO は、ビジネス・リーダーと密接に連携し、デジタル化を活用して売り上げ創出や利益の改善のほか、組織のミッションと顧客、パートナー、市民満足度向上を実現するビジネス能力を開発する必要があります。



出典：ガートナー

3つの課題と CIO が実行すべきアクション



相反する複数のビジネス優先課題の解決

世界がCOVID-19から回復する中、CIOは今、効率、成長、レジリエンスという相反する目標を同時に実現する責任を担っています。



CIOが実行すべきアクション

ビジネス・コンポーザビリティを浸透させ、相反する必須課題への取り組みを支援します。



人材とデジタル・デクステリティの不足

デジタルを基盤とした組織として成功するには、高いデジタル・デクステリティ (デジタルを高度に活用する能力と意欲) が必要です。デジタル化された組織における変化のペースは、従来型の産業化された組織における場合よりも速く流動的であるため、組織にはバーサタイル (多能な人材)、スペシャリスト、ゼネラリストが共に必要となる可能性があります。



デジタル・デクステリティを高め、人材／スキル不足を解消する、増幅力を活用します。



ハイブリッド・モデルに合わせた業務の再設計

組織にとって今こそが、産業化時代の制約に基づく、場所を中心とした業務モデルから脱却し、人間を中心とした業務モデルを再設計してデジタル時代に合った人材獲得とビジネス成果を実現する機会にあたります。



CHRO (最高人事責任者) と協力し、人間を中心とした、ハイブリッド環境に適合できるような業務モデルを再設計します。

コンポーザビリティを活用して、相反する必須課題に取り組む



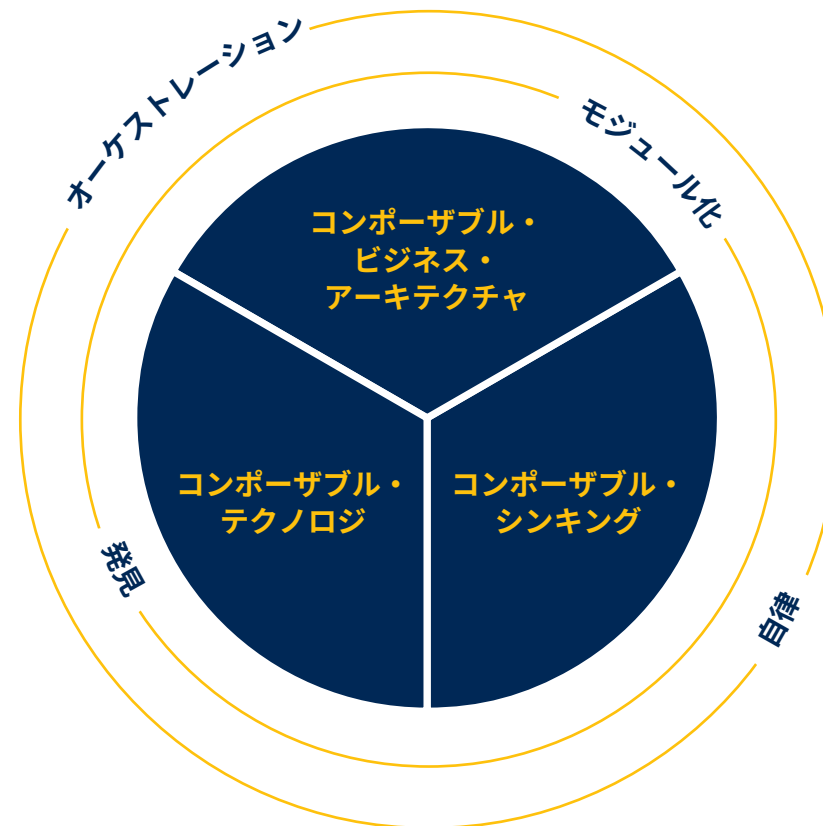
主要なビジネス能力、バリュー・ストリーム、プロセスを再設計してコンポーザビリティを高め、優先課題の変化に適応しやすくします。



フュージョン（融合）チームとビジネス・テクノロジスト（IT 部門以外で、社内外のビジネスで使用するためのテクノロジー／アナリティクス機能を創出している従業員：テクノロジー・プロデューサー）に対し、ビジネス・ソリューションの設計と提供に当たり、コンポーザブル・テクノロジーを活用するよう促します。



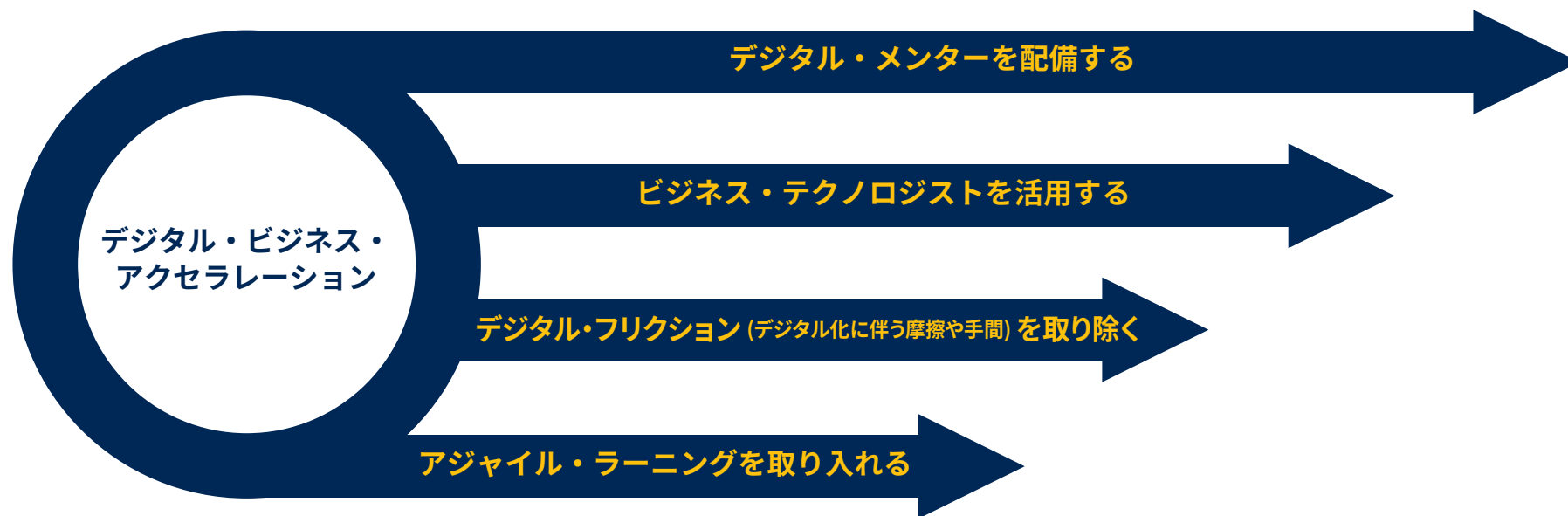
コンポーザブル・シンキングに関するビジネス・ナラティブ（物語）を明確に示します。コンポーザブルの原則（モジュール化、自律、オーケストレーション、発見）を職務領域に適用する方法について、ビジネス・リーダーを教育します。



出典：今こそ、レジリエントな未来を創造せよ：「Gartner IT Symposium/Xpo 2020」基調講演の主な知見

デジタル・デクステリティを高めて、人材／スキル不足を解消する

CIOは4つの増幅力を活用して、自社のリソースを補完し、より迅速に人材／スキル不足を解消できます。これは、特にビジネス全体のリーダー層における、デジタル・デクステリティの向上に役立ちます。



出典：ガートナー

人間中心のワークスペース設計に注力する

健康的で生産性が高く、革新的な従業員をサポートするには、新たなテクノロジー、新たな働き方、さらには新たなマネジメントのアプローチが必要になります。



オフィス中心の設計

オンサイト環境向けのオンサイト・モデル：
「業務設計における不動の柱は、場所である」

一貫した業務エクスペリエンスを提供

業務設計原則：エクスペリエンスの平等性

自然発生的なコラボレーションを実現

業務設計原則：イノベーションは偶然に起こる

可視化によるマネジメントを推進

業務設計原則：パフォーマンスはインプットで決まる



人間中心の設計

ハイブリッド環境向けのハイブリッド・モデル：
「業務設計における不動の柱は、個人である」

柔軟な業務エクスペリエンスを提供

業務設計原則：機会の平等性

意図的なコラボレーションを実現

業務設計原則：イノベーションは設計に組み込まれる

共感によるマネジメントを推進

業務設計原則：パフォーマンスは成果で決まる

出典：ガートナー

実用的で客観的な知見

企業の皆様は、以下のようなCIOのための
リソース／ツールを無償でご利用いただけます。

<p>Research </p> <p>Gartner Business Quarterly</p> <p>広範囲にわたる経営幹部に最も注目されているリサーチについて、最新情報を入手できます。</p> <p>今すぐダウンロード (英語)</p>	<p>Tool </p> <p>Gartner BuySmart™</p> <p>コストを削減し、よくある落とし穴を避け、IT調達の最適化を支援する知見・助言を提供します。</p> <p>詳細を見る</p>	<p>eBook </p> <p>2022年のCIOとテクノロジー・エグゼクティブのアジェンダ：不確実性に満ちた時代に成功を収めるために、ビジネス・コンポーザビリティを使いこなせ</p> <p>ビジネス・コンポーザビリティに優れた企業になるために必要なスキルを紹介します。</p> <p>今すぐダウンロード</p>	<p>eBook </p> <p>2022年の戦略的テクノロジーのトップ・トレンド</p> <p>デジタル・ビジネスの未来を形成する12のテクノロジー・トレンドを把握できます。</p> <p>今すぐダウンロード</p>
---	--	--	--

ガートナーのお客様はクライアント・ポータルでさらに多くのリソースをご利用いただけます。 [ログイン](#)

Get More.

ガートナーは、経営幹部およびそのチームに対し、実行可能かつ客観的な知見を提供しています。ガートナーの深い専門知識によるガイダンスやツールは、組織が最優先のビジネス課題についてより迅速でスマートな意思決定を下し、より大きな成果を獲得することを可能にします。

弊社サービス全般に関するお問い合わせ先

TEL：03-6430-1850 (営業本部)

E-Mail：japan.sales@gartner.com

ビジネスを成功に導くガートナーのサービス
www.gartner.co.jp/ja/information-technology

最新の知見をご確認ください

